

JENESYS2024 日本・インドネシア 政治・経済・文化交流（若手社会人招へい）の記録

JENESYS2024 日本・インドネシア 若手外交官・地方行政官の政治・文化交流（招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

● 日本・インドネシア 政治・経済・文化交流（若手社会人招へい）

インドネシアの若手メディア関係者が、日本の外交政策や経済などの主要政策に関する講義や意見交換を通じて関係者とのネットワークを築き、文化体験を通じて日本社会や文化への理解を深めることを主目的に、1月28日から2月4日まで訪日しました。一行は東京都と北海道を訪れ、各種講義の受講に加え、日本のテレビ局や新聞社などの報道現場を視察しました。日本で得た学びは、参加者によって SNS や所属するメディア等を通じて発信されました。

● 日本・インドネシア 若手外交官・地方行政官の政治・文化交流（招へい）

インドネシアの若手外交官と地方行政官が、日本の外交政策や経済等の主要政策に関する講義や意見交換を通じ、関係者とのネットワークを築き、日本への多角的な理解促進を図ることを主目的に1月28日～2月4日まで訪日しました。一行は東京都、北海道へ訪問し、講義や地方議会の視察等を行い、日本の行政について学んだことを SNS 等を通じて広く発信しました。

【参加者】

インドネシアのメディア関係者及びメディア関係を志す青年 16 名

インドネシアの若手外交官及び地方行政官（パプア州）16 名 合計 32 名

【訪問地】東京都 32 名、北海道 32 名

【日程】

このプログラムは、JENESYS2024 日本・インドネシア多文化共生交流（イスラム青年招へい）と一部合同で実施しました。

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

1月21日（火曜日） 【日本理解講義】「日本の魅力」

講師：千葉大学国際未来教育基幹 教授 織田 雄一 氏

【来日前オリエンテーション】

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「事前オリエンテーション」「日本理解講義」
「南三陸町からのメッセージ」「日本文化理解（京都）」「日本語」

■ 招へいプログラム：

1月28日（火曜日） 成田国際空港より入国

【来日時オリエンテーション】

【視察】浅草

1月29日（水曜日） 【視察】東京国立博物館

東京都から北海道へ移動

1月30日（木曜日）

【表敬訪問】滝川市

滝川市副市長 中島 純一 氏

【テーマ関連講義】滝川市役所

①「滝川市総合計画」

②「滝川市における国際的な取り組みについて」

講師：滝川市 総務部企画課 鎌塚 誠 氏

【テーマ関連講義】滝川国際交流協会「滝川国際交流協会の活動」

講師：滝川国際交流協会 参事 阿部 孝志 氏

【視察】道の駅たきかわ

1月31日（金曜日）

【視察】北海道議会

<グループ別プログラム>

● 日本・インドネシア 政治・経済・文化交流（若手社会人招へい）

【テーマ関連視察】北海道テレビ（HTB）

【テーマ関連視察】北海道新聞

● 日本・インドネシア 若手外交官・地方行政官の政治・文化交流（招へい）

【テーマ関連講義】北海道庁

「北海道とASEANの関係（経済・国際・人材交流）」

講師：北海道 総合政策部 国際局 国際課 主任 山本 悌寛 氏

北海道 総合政策部 国際局 国際課 主査 木村 彰仁 氏

2月1日（土曜日）

【ホストファミリー対面式】

【ホームビジット】

2月2日（日曜日）

【学校交流】北海道滝川西高等学校（書道体験）

北海道から東京都へ移動

2月3日（月曜日）

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）



【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

2月4日（火曜日）

成田国際空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

 <p>2025 年 1 月 21 日【日本理解講義】</p>	 <p>2025 年 1 月 21 日【来日前オリエンテーション】</p>
--	---

招へいプログラム



2025 年 1 月 28 日【オリエンテーション】



2025 年 1 月 28 日【視察】浅草



2025 年 1 月 29 日【視察】東京国立博物館



2025 年 1 月 30 日【表敬訪問】滝川市役所



2025 年 1 月 30 日【テーマ関連講義】
滝川市役所



2025 年 1 月 30 日【テーマ関連講義】
滝川国際交流協会



2025 年 1 月 30 日【視察】道の駅たきかわ



2025 年 1 月 31 日【視察】北海道議会



2025 年 1 月 31 日【テーマ関連視察】
北海道テレビ（HTB）



2025 年 1 月 31 日【テーマ関連視察】
北海道新聞



2025 年 1 月 31 日【テーマ関連講義】北海道庁



2025 年 2 月 1 日【ホストファミリー対面式】



2025 年 2 月 1 日【ホームビジット】



2025 年 2 月 2 日【学校交流】
北海道滝川西高等学校（書道体験）



2025 年 2 月 3 日【報告会】



2024 年 2 月 3 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人（メディア関係者）

北海道のテレビ局と新聞社への訪問は、興味深く有益な内容でした。編集現場を直に見る機会が得られ、実際の業務について知見を深められました。それぞれのメディア機関には、インドネシアでは馴染みがない、マスコットキャラクターロゴ（北海道テレビは On ちゃん、北海道新聞社はぶんちゃん）が設けられており、大変印象的でした。

◆ 社会人（メディア関係者）

計画された全ての訪問先は、いずれも印象的でした。とりわけ、ホームビジットプログラムでの、我々を迎え入れ、丁寧にご対応くださったホストファミリーのみなさんと過ごした時間は格別であり、深い感銘を覚えました。地域の一般家庭訪問を通して、日本の文化や社会の特性を垣間見ることができました。日本の人々と直に意思の疎通を図り、文化や習慣の一端に触れることができました。

◆ 社会人（マスコミ関係者）

滝川市では、地域社会を訪問し、住民の方々と直接に接し、交流を深める機会が得られました。ホームビジットを通じて、日本の社会・文化・地域の人々の暮らしについて知見を深められました。

◆ 社会人（外交官）

最も良かったのは、日本の文化、技術革新、ASEAN との協力関係について直接説明を聞いて、より理解を深めることのできた視察プログラムでした。日本では、経済、技術、社会生活において、効率性と持続可能性が重視されていることを学びました。例えば、運輸部門において、新幹線のような公共交通機関は、効率的であるばかりでなく、他国も導入すべき環境に優しい技術革新の好例です。また、各分野の専門家との直接の交流を通じ、日本で取られている政策やイニシアティブ、特に ASEAN との経済・社会・文化の交流について、より具体的に理解することができました。訪日中のオープンな意見交換を通じて、参加者と受け入れ先の関係が強化されたと共に、参加者の見識がより豊かなものになりました。全体的にこのプログラムを通じて、日本への理解をより深めただけでなく、今後の協力の可能性を探る上でも、新たな視点と刺激を得ました。

◆ 社会人（行政官）

各訪問先への印象は大変すばらしく、日本に関連する体験を通じて、知識を深めることができました。特に印象的だったのは、東京国立博物館で学ぶことのできた日本の歴史、日常生活で常に生かされている日本の伝統文化、市民の福祉のための政府の経済制度、日本人家庭の大変すばらしい特徴と礼儀、頑強な建築物、とても清潔な環境でした。

◆ 社会人（外交官）

最も良かったプログラムは、ホームビジットと北海道庁での講義と意見交換でした。ホームビジットでは、真の交流を行うことができ、両国間の文化と生活様式の大きな違いについて学ぶことができました。北海道庁での講義では、大変参考になる意義深い情報を得ることができ、時間が足りない程でした。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 協力団体

実施している協会としては、プログラムの実施により来日される参加者とプログラムに関わる日本人との絆や相互理解が深まる活動につながっていると感じています。今後も機会があればプログラムの受け入れを継続したいです。

◆ ホストファミリー

暑いインドネシアからいらっしゃるということで是非冬遊びを体験していただきたい思いがありました。ちょうどたくさんの雪が降った後だったので、雪にダイブしたり、雪山に登って楽しんでいる姿を見られて嬉しかったです。私たち家族だけでなく友人も招いて受け入れさせていただいたので、みんなで雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりと一緒に外遊びできたのが印象的でした。「滝川では雪ベッドだけど、インドネシアなら砂ベッドだよ」という話を聞いて子どもたちは「行ってみたい！」と興味を持っていました。また友人の紹介でランタン作りもでき、夜にランタンに火を灯して記念撮影もできました。極寒の夜を体験しながら滝川のランタンも紹介できて嬉しかったです。普段、学校で習っている英語が、実際の会話となると、なかなか出てこなかったり、何とか単語をつなげてコミュニケーションができ、貴重な経験になりました。

◆ ホストファミリー

自分自身の言語能力の劣化が一番心配でしたが、むしろそこに頼らなくてもコミュニケーションが可能だと知ることができたことは発見でした。氷点下の気温の中、白銀の世界で、はしゃぎ、喜ぶ参加者の姿が、この地域の魅力を再認識させてくれました。

◆ 交流校関係者

参加者が、書に対する説明や、毛筆での表現に対して、とても強い意欲を示しながら取り組んでいた点が非常に印象に残っています。日本人にも持って頂きたい、文化への関心の強さの大切さや効果を痛感しました。実技指導の補助と毛筆で書いた文字のプレゼントを担当しましたが、自身の知識技能が通用したことと、外国語の知識に頼らずとも交流ができたことから、交流への興味関心が高まりました。日本文化や書の文化を、外国各地で広めたいと強く感じる機会になりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 <p>Sebelum ke Museum Nasional Tokyo. Menambah wawasan bagaimana semestinya museum dikelola agar tak sekadar jadi gudang benda benda bersejarah. Karena tak semua bisa diingat, aku pun mencatat. Sampai jumpa di Hokkaido. #jenesys_ucean @jice_exchange</p>	 <p>Jadi, agenda hari ini, setiap grup peserta Jenesys akan bertemu masyarakat lokal, keluarga angkat masing-masing di Takikawa.</p> <p>Kami bertemu Pak Kazuo Kato, dan dijemput pakai mobil untuk pergi ke rumahnya. Lalu kami diajak makan Aji Dushi dan kontang maru yang pas banget di musim dingin.</p> <p>Setelah itu, kami diajak main ski untuk pertama kali. Meskipun memang sering jatuh-jatuhan, tapi seru banget! Umangnya Pak Kazuo akan banget nganterin kami.</p> <p>Abis main ski, kami makan sushi bareng, pesen banyak biar nggak kelaparan. Terus foto bareng dan bagi kenang-kenangan.</p> <p>Makasih banyak, sehat selalu Pak Kazuo</p>
<p>2025 年 1 月 29 日 (Instagram)</p> <p>社会人 (メディア関係)</p> <p>東京国立博物館の訪問を通じて、博物館の運営管理について有益な知見を深められました。世間で見過ごされがちな大切なこと、博物館は単に歴史的な資料の保管庫ではないということを再認識できました。</p>	<p>2025 年 2 月 1 日 (Instagram)</p> <p>社会人 (メディア関係)</p> <p>本日の JENESYS プログラム内容について。</p> <p>それぞれの参加者は、滝川の地域住民の家庭、ホストファミリーの自宅を訪問しました。対面式でホストファミリーに迎えに来ていただき、ご自宅までは車で移動し、ホストファミリー宅にて、稲荷ずしや、寒い冬にはうってつけの、甘味の強い</p>

	<p>芋料理を振る舞っていただきました。その後、生まれて初めてのスキーを体験し、何度も転倒を繰り返しつつも、冬のスポーツを満喫しました。ホストファミリーの方は、粘り強く、スキーに不慣れな我々の面倒を見て下さいました。皆でお寿司を食べ、空腹を満たし、最後に記念写真を撮影しました。</p>
<p>Mewakili Delegasi Pemerintah Provinsi Papua Indonesia menyerahkan Cenderamata berupa lukisan burung Cenderawasih yang di lukis diatas kulit kayu hasil kreatifitas Masyarakat Papua secara khusus budaya Sentani kepada Pemerintah Provinsi Hokkaido Jepang. 🍌</p> <p>Cenderamata ini menjadi lambang persahabatan antara Papua Indonesia dan Hokkaido Jepang. 🍌</p> <p>#jenesys_asean JICE's International Exchange Programs #sorotan #pendidikan #motivasi #budaya #persahabatan #semuaorang</p> 	 <p>Today, we had the opportunity to tour the Hokkaido Parliament building in Sapporo. The assembly room is meticulously designed with a special area where constituents with children can attend meetings without worrying about disturbing the proceedings. A very thoughtful approach! 🍌 #jenesys_asean © Sapporo, Hokkaido</p>
<p>2025 年 1 月 31 日 (Instagram)</p> <p>社会人 (行政官)</p> <p>インドネシア・パプア州政府を代表して、地元センタニ地区特有の文化の技法で現地職人が木の皮に描いた極楽鳥の絵を記念品として北海道庁に贈呈いたしました。この記念品は、インドネシア・パプア州と北海道庁の友好の象徴です。</p>	<p>2025 年 1 月 31 日 (Instagram)</p> <p>社会人 (外交官)</p> <p>今日は札幌にある北海道議会を訪問する機会を得ました。本会議場はきめ細かく設計されており、子どもを連れた市民のための特別な部屋もあり、子どもが騒いでも議事を妨げるのを心配することなく傍聴できます。とても配慮に富んだ設計です。</p>
<p>日本文化を学ぶ インドネシアの若手メディア関係者と交流 両国間の共通点と違いに興味深々</p> <p>2025年1月31日 (金)</p> <p>1月31日(金)、インドネシアのテレビ局や新聞社など、メディアで働く若者らの外務省主催交流プログラムでHKBを訪問し、意見交換を行いました。一行は本日の交流会やイベントの模様を伝えるための海話を発表した若い世代の若者やアパウンターや地産物館との交流では「報道の自由はどこまで認められているのか?」「テレビ観戦に利用するインターネットでの情報は?」「マスコミのキャラクターの報道は?」など、さまざまな質問があがっていました。また技術関係の説明を受けながらスタジオや主要部署を見学。「説明はどのようになっているのか?」などと尋ねて、インドネシアとの違いを痛感していました。一行は講演会や新聞社なども訪問。8日間の訪問交流プログラムの報告会では「自分のテレビ局でもおもしろいようなキャラクターを作りたい」という声も聞かれました。</p> 	<p>Jenesys: Serunya Eksplor Budaya, Politik, dan Kemajuan Ekonomi Jepang</p> <p>Tayang: Minggu, 23 Februari 2025 20:23 WIB</p> <p>Penulis: Hasriyani Latif Editor: Hasriyani Latif</p> 
<p>2025 年 1 月 31 日 (北海道テレビのホームページ)</p> <p>「日本文化を学ぶインドネシアの若手メディア関係者と交流 両国間の共通点と違いに興味深々」</p> <p>1 月 31 日 (金)、インドネシアのテレビ局や新聞</p>	<p>2025 年 2 月 23 日 (Tribun-Timur.com)</p> <p>「JENESYS : 日本の文化、政治、経済発展を探索する楽しさ」</p> <p>48 名の参加者が JENESYS プログラムを終えまし</p>

社など、メディアで働く若者らが外務省の国際交流プログラムで HTB を視察し、意見交換を行いました。一行は日本の社会や文化への理解を深めるため北海道を訪れた若い世代の 16 名で、アナウンサーや報道部員との意見交換では「報道の自由はどこまで認められているのか?」「テレビ離れに対応するインターネットでの展開は?」「マスコットキャラクターの役割は?」など、さまざまな質問があがっていました。

また技術局員の説明を受けながらスタジオや主調整室を見学、「速報はどのように伝えるのか」などと尋ねて、インドネシアとの違いを確認していました。一行は道議会や新聞社なども視察、8 日間の国際交流プログラムの報告会では「自分のテレビ局でも on ちゃんのようなキャラクターを作りたい」という声も聞かれました。

た。参加者は 2025 年 1 月 28 日から 2 月 4 日までの期間、東京、北海道、長崎を訪問しました。ポッドキャスト「Ngovi Tribun Timur」(2025 年 2 月 22 日放送)に、JENESYS 同窓生をお呼びして、約 1 週間のプログラムの思い出についてインタビューしながらお話を伺いました。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表(抜粋)

日本・インドネシア 政治・経済・文化交流(若手社会人招へい)(グループ B)

訪問地: 東京都、北海道 全 3 グループ発表

グループ B1



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び:

- ① 日本は、個人や集団が一定のルールやマナーを守ることが習慣化した社会であり、ごみの分別による美化の徹底がなされ、時間厳守が常識の社会であるということがわかりました。
- ② 東京国立博物館の視察を通じて、歴史的美術品の展示物に限らず、現代的な内容の期間限定展示(ハローキティ)が催されていました。博物館の警備体制やテーマに即した特別展示の実施等、国家機関による博物館の細やかな運営管理を知ることができました。北海道で紹介された「歌志内郷土館ゆめつむぎ」にも通じることですが、日本では文化・歴史を知るための各種資料が大切に管理・保存されています。
- ③ 北海道議会の視察を通じ、市民による道議会・代議士の監視(傍聴席)の仕組みが確立していることがわかりました。

【アクション・プラン】

日本での体験をそれぞれの所属メディア（紙媒体、オンラインメディア、映像、Podcast等）にて、訪日期間中から発信しています。この日本紹介は、今後も続け、個人のSNS（Instagram、X、YouTube、TikTok）でも発信を続けます。

▽参加者所属機関からの日本に関する情報発信事例

- ① Tribunnews.com : 「南スラウェシ州マカッサル市名物のお菓子ピパン・ブギス（おこし）を振る舞い、交流を深めた日本の地域住民・ホストファミリーとの別離時に涙が流れた。」
- ② Rakyat Merdeka 紙デジタル版 : 「黒田記念館」 “インドネシアの歴史・文化関連資料収集所蔵、日本の歴史を知悉”
- ③ Rakyat Merdeka 紙 : 「ホームビジットプログラムを通して知悉した一般家庭の生活様式」、「滝川市政」、「JENESYS プログラムを通して知悉した日本の社会と文化」
- ④ Bali TV : 「浅草観光」
- ⑤ Antara 通信 : 「北海道議会施設の特徴的な建築様式」、「北海道の食文化」
- ⑥ Lombok Post 紙 : 「清潔な日本の生活様式」
- ⑦ Tribun Timur 紙 : YouTube・Facebook を用いた日本で参加したプログラム内容の紹介



①Tribunnews.com



③Rakyat Merdeka



④Bali TV(YouTube)



⑦Tribun Timur.com (YouTube)

グループ B2



【成果の発表】

- ◆ 訪日全般の学び :
 - ① 時間厳守、横断歩道、列をなして順番を待つ、喫煙場所以外ではタバコを吸わない習慣等、日本ではあらゆる場面において、誰もが決められたルールとマナーを守り、秩序保持を念頭に置いた行動が徹底されていました。
 - ② 滝川市では、住民の意見を念頭に置いた政策づくりを行っていました。また、政策づくりに市民を巻き込むことで、財政の透明化が具体化できていることを知りました。
 - ③ 冷涼な気候は我々にとってカルチャーショックとなりました。地域住民は、冬季の間には甘い味付けの食品を好む傾向が見られました。
 - ④ 日本では歴史や文化を学べる資料を展示した博物館が、都心部でも地方でも充実していると感じ

ました。同じように、日本では先端技術の駆使についても、都会から田舎にいたるまで全体に余すところなく行き渡っていました。

◆ 日本とインドネシアの相違点と共通点：

- ① インドネシア同様、日本でも都市化が極度に進んでいます。
- ② 日本の地方においては、都市への人口流出に伴い過疎化が深刻化しています。インドネシアでもその兆候は昨今見られるようになりました。
- ③ 社会のデジタル化に伴い日本の活字メディアもインドネシア同様、生き残れるかどうか、先行きが不透明であり、現在岐路に立たされていますが、SNS や YouTube を活用した生き残り戦略を積極的に講じています。

【アクション・プラン】

プログラム参加者それぞれが、個人の SNS と、自らが所属する報道・放送機関、ラジオ局、テレビ局、デジタル・メディア等を通して、日本に関する情報をインドネシア国内に発信し、日本理解を広げます。特に、東京の美観、東京国立博物館の良好な運営、日出ずる国のおいしい料理に関する情報発信については、それぞれが所属するマスメディア機関で発信を行う予定です。

▽参加者所属機関からの日本に関する情報発信事例

- ① Waspada.co.id：「9 時間に渡る滝川市住民一般家庭での日本・インドネシア文化交流」
- ② Suara Surabaya Media：「Suara Surabaya Radio 社員の FM 滝川ラジオ番組出演」
- ③ Liputan6：「インドネシア歴史的資料 400 点所蔵の東京国立博物館、インドネシア国立博物館にて所蔵資料の展示を計画」
- ④ Med.com.id：「未知の領域に足を踏み入れる。東京国立博物館に展示の歴史的な価値ある工芸品」
- ⑤ DetikNews：「東京レポート。東京散策 1 万 4000 歩」
- ⑥ Metro TV：「夕刻の札幌。民主主義が染みわたる、日本のマスメディア業界、札幌の雪景色」



①Waspada.co.id



③Liputan6



⑤DetikNews



⑥Metro TV

グループ B3

Kelompok B3



Persepsi

Sebelum

- Bangsa Jepang yang tertutup terhadap budaya asing.
- Acuh tak acuh.
- Menesaikan aspek budaya di tengah kemajuan teknologi.
- Sistem pembayaran serba digital.
- Industri media yang masih stabil.
- Kemudahan akses.

Sesudah

- Bangsa akan budaya dan adat tradisi namun tetap menghargai budaya asing.
- Ramah dan berakut.
- Menyelaraskan teknologi dan budaya.
- Penggunaan uang tunai masih masih.
- Media massa yang beragam namun beradaptasi dengan digitalisasi.
- Masih terdapat umat pulau yang mengalami konflik dengan Rusia.



What

Membuat berita tentang pengalaman yang didapatkan selama mengikuti program Jenesys di berbagai platform media (televisi, online, koran, dan social media)

Where

Di TV One, CNN Indonesia TV, Harian Kompas, AntaraNews, Harian Padang Ekspres, padak.jawapos.com, Instagram, Facebook, tiktok.

When

Sejak mengikuti program Jenesys hingga 3 bulan ke depan

【成果の発表】

- ① 来日前、日本は先端的な技術を重視し、伝統文化の継承・保存には消極的であるという印象がありましたが、博物館への視察等を通じ、日本では古くからの伝統と最先端の技術が共存していました。また、自国の伝統文化や習慣を誇りに思う一方で、外国の文化に対しても敬意を示す姿勢を保持しているということがわかりました。
- ② 社会問題として深刻化する地方の過疎化への行政の取り組み事例を得られました。
- ③ 日本のマスメディアの地位はまだ安泰であると思っておりましたが、インドネシア同様に活字離れが進んでおり、それに伴いメディアのデジタル化が進められていました。

【アクション・プラン】

帰国後 3 か月間、JENESYS プログラム参加を通して獲得した知見を多様なメディア・プラットフォーム（テレビ・オンライン・新聞・SNS）を駆使して参加者それぞれの所属（TV ONE、CNN Indonesia TV、日刊 Kompas 紙、ANTARA NEWS、日刊 Padang Ekspres 紙、Padak. Jawa Pos.com Web メディア）から発信していきます。その他、個人の SNS（Instagram、Facebook、TikTok）にも日本での気づきを発信します。

▽参加者所属機関からの日本に関する情報発信事例

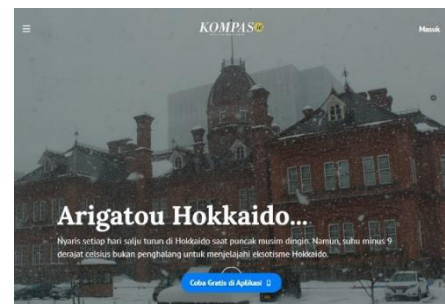
- ① Padang Ekspres 紙：「日本で得られた博物館の運営管理についての学び」
- ② TV ONE(YouTube 配信含む)：「日本の地域の家庭で振る舞われた美味しい食事」「JENESYS プログラム参加者の桜の国紀行」「今日の出来事」「中国旧正月休みにおける桜の国、日本の状況。」
- ③ Kompas 紙：「異国情緒溢れる冬の北海道」



①Padang Ekspres



②TV ONE(YouTube)



③Kompas

訪問地：東京都、北海道 全2グループ発表

LATAR BELAKANG

ADAPUN ALASAN DARI PEMILIHAN JUDUL KAMI SATU :

- [illegible]

**KAMI SANGAT SENANG BISA MENIPAT BAGIAN UNTUK MENGIKUTI PROGRAM JENESTS DAN KAMI
MENIPATKAN BANYAK PELAJARAN DARI MENGIKUTI PROGRAM JENESTS INI.**

KAMI SANGAT SENANG BISA MEMDAPAT BAGIAN UNTUK MENGIKUTI PROGRAM JENESTYS DAN KAMI
MEMDAPATKAN BANYAK PELAJARAN DARI MENGIKUTI PROGRAM JENESTYS INI.

SENDA APA YANG DIAJARKAN DAN DIBAGIKAN KEPADA KAMI DALAM PROGRAM INI TIDAK BERILU
 BEGITU SAJA, TETAPI KAMI AKAN MENYAMPAIKAN KEPADA ORANG-ORANG YANG INCI MENGETAHUI TENTANG
 JEPANG DAN INCI KE JEPANG MELALAI PROGRAM JIMFES.

DUA DAN HARAPAN KAMI, SEMOGA PROGRAM JENESYS SEMAKIN SUKSES KE DEPANNYA DAN AKAN TERUS BERLANJUT. SEMOGA HUBUNGAN PERSAHABATAN DAN KERISAMA INI AKAN TERUS ADA SAMPAI KAPANGPUN

- SOSIALISASI KE PENERINTAH DAERAH
- PEMBUATAN AKUN MEDIA SOSIAL
- SOSIALIASI DI RADIO REPUBLIK INDONESIA BAK DAN MEDIA LOKAL
- PEMBUATAN STAN PAMERAN PROGRAM JENESYS

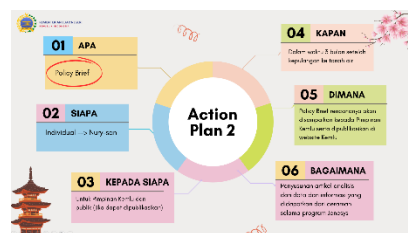


◆ 訪日全般での学び：

◆ 「行政」についての学び：

【アクション・プラン】

グループ C2



◆ 訪日全般での学び：

- ◆ 「日本とインドネシアの政治・文化交流」についての学び：

- ① 二国間協力の強化の可能性 (a. 貿易 (インドネシアから北海道への輸出は ASEAN の中で最大)、
b. 雇用 (日本は魅力的な労働力市場)、c. 地方自治体が積極的に国際経済協力を推進)

- ② 日本の ASEAN に対する役割（a. 北海道庁は ASEAN 事務所を有し、b. ASEAN との関係構築を推進、c. 北海道と ASEAN の貿易総額は 2,224 億円、d. その主要品目は食品（水産物）・鉱物資源であること等）について学びました。

【アクション・プラン】

・グループ全体で、JENESYS に関するビデオを作成し、インドネシア外務省の教育研修センターの SNS を通じて、外務省職員及び一般市民（外務省 SNS のフォロワー）に対し、帰国後 1 週間かけて周知します。動画作成にあたっては、まずコンセプトを決め、JENESYS の活動についての記録をまとめます。

・政策ブリーフをインドネシア外務省の幹部に行い、また、もしそれについて外部に発表する場合は一般に対しても周知することになります。帰国後 3 か月以内に、幹部に対して説明を行い、外務省ホームページにも掲載する予定です。JENESYS プログラム中の講義で得たデータや情報を分析して文書をまとめる予定です。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）